

4. 刈り払い機取扱い講習会

今まで3台の刈払機を定例活動の下草刈りに使用していましたが、作業の効率化を図るために新たに2台を購入しました。これを機に、刈り払い機の事故防止とより多くの会員が操作できることを目的として、3月17日(日)の定例活動を休止し、会員23名が参加して刈り払い機の手取り講習会を実施しました。なお、刈り払い機は、西武信用金庫様の「西武環境保全活動助成金」で購入しました。その他チェーンソー等も購入しました。



構造などについての講義



使用方法についての講義



本丸西・腰曲輪での実地講習

5. その他

(1)総合案内板が設置されました。

昨年3月の遺構説明板設置(15か所)に続き、今年3月に滝山城跡内の5か所(天野坂下入口、中の丸、二の丸東行き止まりの曲輪、搦め手口、古峯ヶ原園地)に総合案内板が設置されました。総合案内板は3種類あり、中田正光さん(会員・城郭研究家)が作成した滝山城跡の縄張り図、滝山城跡の歴史解説、八王子市内に残る14の城跡などが記載され、遺構説明板とともに、初心者にも滝山城跡が理解しやすいものになっています。

新緑が美しい季節です。滝山城跡を散策して総合案内板をご覧ください。



新しい総合案内板

(2)ペーパー甲冑を新たに5組購入しました。

ペーパー甲冑5組を購入し、2月24日(日)に加住市民センターで組立てました。甲冑は3月31日の滝山城跡見学会で着用する予定でしたが、当日が雨模様だったため、今回の着用は見送りとなりました。

(3)東京新聞に滝山城跡に関する記事が掲載されました。

平成25年2月7日付東京新聞に『サクラ倒木で「滝山城跡」の斜面崩れる 八王子市 半年間も放置』と題する記事が掲載されました。一昨年の台風により多くの倒木が生じましたが、記事では二の丸南側の空堀のサクラの倒木を取り上げ、市観光課と文化財課のサクラの管理と史跡保全の問題や城跡周辺の活用方針が定まっていないことを指摘し、堀の崩れを放置すればますますひどくなるのになかなか手を伸ばしてもらえない。」と中田正光さん(会員・城郭研究家)の意見と空堀に立つ写真も掲載されています。

(4)ホームページを改修しています

ホームページ「よみがえる滝山城」(<http://takiyamajo.com/>)を改修しています。ホームページを管理していただいている樋口さんのご協力をいただき、トップページに写真を入れ、メニューを修正するなど、読みやすく、扱いやすくすることを目指して「少しずつ」直しています。改修完了までにはまだ時間がかかりますが、ホームページにアクセスして確認してみてください。



(5)新入会員紹介

平成24年6月に入会された三木靖さんです。八王子市犬目町にお住まいで、現在、鹿児島国際大学短期大学部名誉教授。鹿児島県文化振興財団評議会長。鹿児島県文化財保護審議会会長。南九州城郭談話会会長。鹿児島県・宮崎県・沖縄県の中世城郭の調査保存活用委員会委員長等幅広いご活躍をされています。また、ブログ『山城を歩く』には城郭探訪の記録を綴られています。三木さんよりひとこと「滝山城跡は日本を代表する城跡だと思います。この滝山城跡を保存して、より多くの方に知って頂けることを期待しています。」



NPO法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会 会報 「滝山だより」 第7号

発行日 平成25年5月1日

発行者 NPO法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会

理事長 西山富保 (連絡先 携帯 090-4390-7831)

編集 高橋 努

滝山城跡群・自然と歴史を守る会 ホームページ <http://takiyamajo.com/>

滝山だより

よみがえる滝山城

NPO法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会

会報 第7号

平成25年5月1日発行

平成25年1月～3月度の活動

1. 定例活動(滝山城跡の遺構の景観回復と景観維持活動)

日付	時間	実施場所
1/20(日)	9:30~15:00	千畳敷・腰曲輪周辺
2/17(日)	9:30~15:00	本丸西・出丸周辺
3/17(日)	9:30~15:00	刈り払い機取扱い講習会(4ページに記事)



1/20 雪が残る千畳敷・腰曲輪での間伐作業



3/17 本丸西・腰曲輪の篠竹の刈込み作業前の景観



3/17 本丸西・腰曲輪の作業で縦堀まで見通せるようになりました

2. 滝山城跡見学会と滝山城跡ボランティア・ガイド

日付	内容	主催または依頼者	参加者
2/17(日)	滝山城跡見学のガイド	歴史サークル城郭同好会 城人(しろうと)	13名
3/14(木)	滝山城跡見学のガイド	東京サムライ会	11名
3/31(日)	滝山城跡見学会	NPO 法人滝山城跡群・自然と歴史を守る会	50名



2/17 歴史サークル城郭同好会 城人



3/14 東京サムライ会



3/31 滝山城跡見学会

3. 城郭学習会

第3回城郭学習会は、平成25年2月3日(日)にマイクロバスで所沢市生涯学習推進センター(埼玉県所沢市)、滝の城跡(埼玉県所沢市)、難波田城跡(埼玉県富士見市)、岡の城山(埼玉県朝霞市)を訪問しました。

(1)所沢市生涯学推進センター

(埼玉県所沢市)

滝の城跡の訪問前に、所沢市生涯学習推進センターで滝の城復元模型(『滝の城跡保存会』製作)を見学しました。

復元模型は、横180cm×縦140cmの大型のもので、戦国時代の滝の城が精巧に再現されています。



展示されている滝の城復元模型



建物や障子堀など細部まで想像復元されています

(2) 滝の城跡(埼玉県所沢市)

滝の城は本郷城ともいい、戦国時代に大石氏が築城しました。その後、大石氏に養子として入った北条氏照の持ち城となり、氏照の拠点である滝山城・八王子城と川越や北関東を結ぶ重要な継ぎの城になりました。滝の城は柳瀬川と東川に挟まれた自然の要害である台地上に、堅固な縄張りを施した城で、本丸は25メートル程の崖上にあり、本丸を囲むように、二の丸、三の丸、物見櫓跡、土塁、空堀などが残っています。城跡は、地域住民による『滝の城跡保存会』によって下草刈りや城域の整備がされています。また、城跡内では所沢市による発掘調査が過去三回実施され、本丸内の四脚門跡や大手口付近での障子堀跡などが確認されています。現在も発掘調査が実施されていて、二の丸では包丁のようなものが出土し、三の丸では地下深くに井戸跡と見られる遺構とそこに降りるための階段遺構が見つかっています。



柳瀬川方面から見る滝の城
中央が本丸



「滝の城跡保存会」が城跡の保存と
活用に大きな役割を果たしています



本丸に建つ八幡神社 後方は櫓台跡



発掘調査中の三の曲輪前の門跡
敷石があったことが確認できます



大手門跡で解説していただく「滝の城跡
保存会」の新井会長と会員の皆様



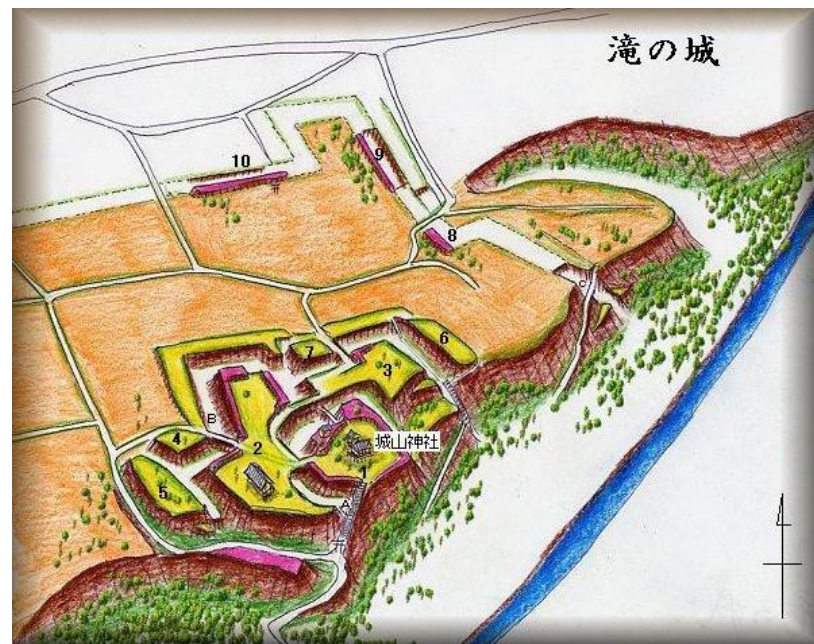
外郭に残る土塁と空堀跡は民有地内
ですが、今回は特別に見学できました



滝の城の由来となった滝は公園化工事
の際に水が枯れてしまっています



三の丸で発見された井戸跡と階段と
みられる遺構



2ページと3ページに掲載の滝の城、難波田城、岡城の3点の鳥瞰図は、インターネットサイト『余湖くんのお城のページ』より転載させていただきました。(http://homepage3.nifty.com/yogokun/)

(3) 難波田城跡(埼玉県富士見市)

難波田城跡は、戦国時代に現・富士見市内を本拠とした難波田氏の居城跡で、富士見市は城跡の一部を保存・活用するために難波田城公園として整備しています。公園化されているのは城跡の一部で、本丸跡を含む城跡地の大半は残念ですが宅地や農地となっています。難波田城は荒川低地の一角に築かれた平城で、川の水を引き入れた池の中に点在する曲輪を橋や土橋で繋ぐ縄張りは、昨年話題になった忍城によく似ています。難波田氏は武蔵七党の村山氏の一族金子氏が承久の乱の恩賞として難波田(南畠)の地を賜ったことに始まり、戦国時代には扇谷上杉氏の重臣として、深大寺城の整備に関わっています。難波田弾正は松山城での北条軍との攻防戦では、風流な和歌合戦のエピソードを残していますが、天文15年(1546)の河越夜戦で井戸に落ちて死亡したと伝わっています。



想像復元されている大手門



池に点在する曲輪を橋で繋ぐ縄張りが特
徴的です



二の丸跡に建つ難波田城碑の奥の住宅地
が本丸跡



難波田城公園の
マスコットキャラクター
「なんばった」



(4) 岡の城跡(埼玉県朝霞市)

北側に流れる黒目川に接する崖側を一郭として、折りのある空堀を隔てて最も面積の広い二郭、また空堀を隔てて三郭と、3つの郭が直線的に並ぶ。太田道灌築城と伝わるこの城は、十六世紀中頃に江戸太田氏の居城であったと推定されているが、それ以外のことはよくわかっていない。』(峰岸純夫・齋藤慎一編「関東の名城を歩く 南関東編より」 深大寺城に似た古いタイプの平山城で、比高も低く防御が脆弱に思えるが、城の南側には、以前は川があった(現在暗渠化)ことから、城の周囲に川の水を引き入れて池や沼を造り、防御としていた可能性も考えられます。



城跡は城山公園として整備されています



本丸と二の丸の間に残る空堀跡
現在はとても浅くなっています



最も面積が広い二の丸